

「好奇心持って挑戦を」

卒業生の気象予報士

蓬萊さんがエール

明石西高創立50周年式典で講演

明石西高校（明石市二見町西二見）の創立50周年を祝う式典が11月29日、市立市民会館（同市中崎1）で開かれた。記念講演には、同校卒業生で民放テレビの気象キャスターとして活躍する気象予報士の蓬萊大介さん（同市出身）が登壇。「僕はこうして気象キャスターになった」と題し、在校生や関係者ら約千人の前で自身の経験や考えを語った。（杉山雅崇）



自身の経験と考えを語る明石市出身の気象キャスター蓬萊大介さん＝いずれも明石市立市民会館

1982年生まれ、2006年に早稲田大学政治経済学部を卒業。11年から読売テレビの気象キャスターとなった。司会者との軽妙な掛け合いや、明日の天気をイラストで伝える「スケッチ予報」などで人気を集める。

拍手で迎えられた蓬萊さんは、県3位となったこともあるという柔道部での活躍や、友人とのバンド活動など高校時代のエピソードを披露。「高校生の夏はたった3回。だからやりたいことをやる」と語り、大学在学中には、さまざまなアルバイトや英会話、バンド活動などに挑戦したが、いずれも挫折。卒業後は実家の父に支えられながら、俳優を目指した。

転機は25歳。父と「30歳までに一人前になる」と約束していたが、「30歳で俳優としての芽が出ている」と

思えなかったため断念。東京・渋谷の書店で資格の本を探した。そこで出会ったのが、気象予報士の本だった。

背景には、小学生時代の体験があった。当時、「生き物係」だった蓬萊さんが、勉強ができた記憶はないが、「蓬萊君は生き物のことを教えるのが上手だね」と先生に褒められた。「空

自分の気持ち、ノートに書こう／笑顔、謙虚、感謝大切に

蓬萊さん質疑応答

明石西高校の卒業生で気象予報士の蓬萊大介さんは講演後、代表生徒からの質問に答えた。質問と回答の要旨は次の通り。

― 高校生のうちにやっておいたほうがいいことは？

「好きな子に告白することかな（笑）。それ以外では、自分の気持ちややりたいことをノートに書くことをおすすめします。心のアンテナがいちばん敏感な時期。大人になって見返した時、その中から大切で悔いがないことが見つかったり、原稿が分かったりする。テレビに出演するようになってから、日常生活で気を付けていることは？」

「母に『おかげさまで』

忘れないようにしている」

― 気象予報士の魅力は？

「天気予報を見た人から感謝されること。僕は空を見て、明日の天気がどうなるかを知らせる。そういう『係』として、社会に居場所があるのはいいこと。読

きっかけは？

「近年は雨の降り方が激しくなったり、夏の暑さが厳しくなったりしている。分かりやすいイラストで、子どもたちにも天気予報に興味を持ってほしいと思うから始めた」

― 将来、人工知能（AI）の進歩で気象予報士がいなくなるかもしれないという意見にどう思う？

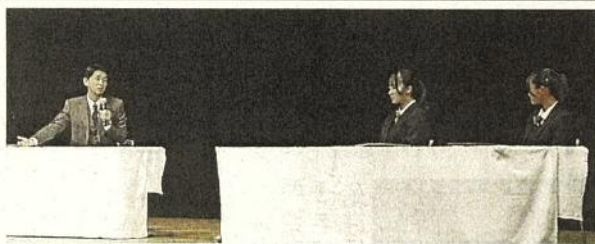
「昔の人は空を見上げて雲の動きを観察したり、動物の様子を見たりして考えていた。今はスマホでも予報が見られるが、人が人に伝えるからこそ、伝わりやすい情報もあるはず。AIの進歩で調べ物などは楽になつていくので、AIは敵ではなく、パートナーだと思っている」

のことや、自然のことを伝える仕事は合っているかも」と思い、レジに向かったという。

2年間勉強し、見事気象予報士の試験に合格した。しばらくは採用されなかったが、自分で天気予報の動画を撮影するなどして練習

を重ねた。その動画がある気象キャスターに見せたことがきっかけとなり、ウェザーニューズ社で働くことに。その後、読売テレビの気象キャスターのオーディションに合格した。

気象キャスターとして15年ほどになり、「結果的に長くやれている仕事が『向いている仕事』だ。皆さんもいろいろな挑戦をしてほ



明石西高校の生徒からの質問に回答する蓬萊大介さん（左）

を忘れるな、と言われていた。テレビ局でも、照明さんや音声さんとか画面に映っていないところにスタツフがいるから放送ができていた。笑顔、謙虚、感謝を

みたい、知りたい。誰かにうまく伝えたい。そんな仕事に出合えたのがうれしい」

― スケッチ予報を始めた

しい」と蓬萊さん。自身の経験を踏まえ、「何をしたいか分からない人は、子どものころに褒められたことを思い出し、大切にしてください。素直に好奇心を持ってなんでもやってみよう」と生徒らに呼びかけた。

「気象予報士の魅力は？」

「天気予報を見た人から感謝されること。僕は空を見て、明日の天気がどうなるかを知らせる。そういう『係』として、社会に居場所があるのはいいこと。読

きっかけは？

「近年は雨の降り方が激しくなったり、夏の暑さが厳しくなったりしている。分かりやすいイラストで、子どもたちにも天気予報に興味を持ってほしいと思うから始めた」

― 将来、人工知能（AI）の進歩で気象予報士がいなくなるかもしれないという意見にどう思う？

「昔の人は空を見上げて雲の動きを観察したり、動物の様子を見たりして考えていた。今はスマホでも予報が見られるが、人が人に伝えるからこそ、伝わりやすい情報もあるはず。AIの進歩で調べ物などは楽になつていくので、AIは敵ではなく、パートナーだと思っている」

を重ねた。その動画がある気象キャスターに見せたことがきっかけとなり、ウェザーニューズ社で働くことに。その後、読売テレビの気象キャスターのオーディションに合格した。

気象キャスターとして15年ほどになり、「結果的に長くやれている仕事が『向いている仕事』だ。皆さんもいろいろな挑戦をしてほ

を重ねた。その動画がある気象キャスターに見せたことがきっかけとなり、ウェザーニューズ社で働くことに。その後、読売テレビの気象キャスターのオーディションに合格した。

気象キャスターとして15年ほどになり、「結果的に長くやれている仕事が『向いている仕事』だ。皆さんもいろいろな挑戦をしてほ

を重ねた。その動画がある気象キャスターに見せたことがきっかけとなり、ウェザーニューズ社で働くことに。その後、読売テレビの気象キャスターのオーディションに合格した。

気象キャスターとして15年ほどになり、「結果的に長くやれている仕事が『向いている仕事』だ。皆さんもいろいろな挑戦をしてほ

を重ねた。その動画がある気象キャスターに見せたことがきっかけとなり、ウェザーニューズ社で働くことに。その後、読売テレビの気象キャスターのオーディションに合格した。

気象キャスターとして15年ほどになり、「結果的に長くやれている仕事が『向いている仕事』だ。皆さんもいろいろな挑戦をしてほ



県内高校別の特設ページはこちら